

テーマ：直前期の壁を破る！過去問の結果から最短で学力を上げる戦略

開催日：2025年10月15日（保護者様向けセミナーより）

この資料は、中学受験直前期（秋以降）の過去問対策に関する保護者様の共通の課題と、プロコーチ・専門家による具体的なアドバイスをまとめたものです。

1. 参加者から共有された主な課題

- 塾のペースと志望校対策のバランス：**塾が過去問対策のペースを管理しており、第一志望校の対策が遅れている（あるいは家での実施を止められている）。塾のペースと第一志望校対策をどのように併用すべきか。
- 優先順位の付け方：**過去間に取り組み始めたものの、苦手克服や解き直しなど「やることが多すぎる」。限られた時間の中で、何から手を付けるべきか。
- 過去問の進捗遅れ：**塾の推奨ペース（例：3週間に1回提出）よりも過去問の進捗が遅れている。
- 入試説明会での確認事項：**来月、複数の学校の説明会に参加予定だが、保護者として聞いておくべき重要ポイントは何か。

2. プロコーチ・専門家によるアドバイスと戦略

(1) 過去問への向き合い方と目標設定

戦略	詳細
過去問の役割の再定義	9月～11月頃の過去問は、学力を上げるための道具というよりも、現在の学力と志望校の要求レベルとの「差分」（かい離）を見るためのもの。必要な対策は、過去問そのものではなく、別の教材で行う。
目標点の設定	合格最低点ではなく、四教科合計の合格最低点を基準とし、安全をみて7割～8割程度の目標点を定める。各教科ごとの合格最低点はあまり気にしないでよい。
解くべき問題の選別	合格点に達するためにどの問題を正解すべきか（優先順位）を確認する。大問の前半にある簡単な計算問題や一行問題を確実にとる戦略が極めて重要となる。

(2) 直前期の学力向上戦略（優先順位と苦手の扱い）

戦略	詳細
短期目標の設定	「やることが多い」状態を脱するため、 今一番近い合格点にいる学校から順に目標（ミッション）を設定 する（例：「3週間でこの学校の合格点まで持っていく」）。これにより、やるべきことに意味が生まれ、優先順位がつけやすくなる。
戦略転換	9月以降は、夏休み頃までの基礎固めから、 より短期間で点数が上がりそうな「伸びしろ」を見つけて攻略していく 戦略に転換する。
苦手の扱い	散々やったのに点が取れない苦手分野は、一旦 後回し にした方が良い場合がある。他の分野で点数を伸ばした後、改めて取り組むと克服できることがある。
「捨て問」の見極め	誰も解けないような難しい問題（1～2問）は「捨て問」として扱い、解き直しの際も時間をかけすぎず、 解説を読む程度 で良い。
解き直しの効率化	解き直しは、 合格点到達に必要な問題（7割～8割までの問題） に絞り、解説をしっかり読んで行う。全てを解き直す必要はない。

(3) 塾との連携と心構え

- **塾のペースの活用:** 塾の指導方針（実力相応の学校から順に合格点を取りながらステップアップする）に乗っかりつつ、早めに合格点に到達して第一志望校対策に進めるよう努力する。
- **第一志望校対策の先行:** 塾の指示と関係なく、親が学校の出題傾向を分析し、必要な対策（例：特定の記述問題、出題形式に慣れるなど）を日々の学習に組み込むのは有効である。
- **本番慣れ:** 模擬試験（模試）の結果は今ほぼ関係なく、**本番慣れや時間配分の練習**のために月1回程度は受けるべき。
- **自信を持たせる:** 受験が近づくにつれて子どもは不安になるため、一つひとつの課題をクリアし、「これはできた」とこれまでよりも強く印象づけながら、**自信を持たせて前進させ**ることが非常に大切である。

3. 次のステップ

- **過去問の結果共有:** 過去問を解いた際は、点数だけでなく、**問題用紙と解答用紙の写真をコーチに共有してください。**これにより、具体的な「伸びしろ」の分析と、短期ミッションの策定がスムーズに行えます。
- **残り時間の意識:** 受験日までの日数を「あと何週間」で数えるなど、子どもが期間の短さをより印象づけられるように工夫し、集中力を高めましょう。